

レクリエーションプログラムの作成

越谷市ジュニアリーダーズクラブ

親 方

研修のねらい

平成9年度から子ども会会員を就学前2年（4～5才）から高校3年生までを対象とする事になりました。そこで、『幼児を含めた活動を』と、様々な動きが始まっています。

しかし、幼児と小学生では、活動範囲が異なるため、余り大きな活動は殆ど為されてきませんでした。

幼児とは？

幼児の行動にはどんなものがあるか挙げてみましょう。

さて今まで挙げてきた事を考慮して、私たちがやってきた活動やレクの中で、幼児ができるものは何か考えてみましょう。

そこで、今回の研修のまとめも考慮し、幼児を含めたプログラムを作成してみましょう。

プログラムとは？

子ども会では、色々な活動が行われています。活動が行われる当日の内容だけではなく、その日を向かえるまでの事前の計画から準備、そして当日のこと、終わってからのまとめ・反省、さらに次への発展まで、その活動の全体の経過すべてを含んだものを『プログラム』といいます。

プログラムを立てるポイント

会員の希望・要望の調査。

活動のねらい・目的をはっきりとさせる。

いつ・どこで・誰が・何を・どうする（なぜ・どのように・いくらで）のか。

【5W2H】

準備するために必要な役割分担は何か、当日の係分担はどうするか。

必要な物品は何か、諸経費はどうするか。

どのようにして会員に情報を伝えるか。（PRの仕方・ポスター・チラシ）
実施後の反省・評価。

等。

活動計画立案の注意点

活動を通して、子どもたちの友達関係が一層深まるもの。

活動が子どもたちの興味・関心から生まれたもの。

活動が子どもたち自身の手によって考え出されたもの。

結果よりも経過を大切に作る活動であること。

役割分担の必要性

みんなの為に、仕事をする事の喜びが分かる。（奉仕の気持ちを育てる）

係り活動を進めることで、集団の中の一人であると自覚する。（集団意識を高める）

係りを受け持ち、生き活きとした喜びを持てる。

（皆に認めれる喜びを持ち、潜在能力を引き出す）

係り活動をやる事により、協力する大切さが分かる。（協調性が培われる）

責任感を持って最後までやり遂げようとする気持ちが育つ。（責任感を高める）

ではプログラムの実例を見てみましょう。

・全国子ども会ジュニアリーダー保育体験授業（第4回全国子ども会中央大会）より

プログラムを実際に立ててみましょう。

行事活動名	
ねらい	
いつ	時間
どこで	会場
参加対象者	
参加費	
内容	

役割(係)	役割の内容

	どんなことをしなければならないか
事前の準備	
当日の準備	
事後の活動	

幼児を対象とした遊びの例

運動遊び

- ・竹馬
- ・足じゃんけん
- ・鬼ごっこ（高鬼・色鬼・手つなぎ鬼・隠れ鬼）
- ・ハンカチ落とし
- ・エスケン 等
- ・リレー
- ・ドッジボール 等

傾向：知恵や工夫を出して、本来の遊びが楽しめる。

役割遊び

- ・ままごと（お店屋さんごっこ・幼稚園ごっこ）
- ・劇遊び 等

傾向：遊びの見通しをある程度でき、約束事に沿って役を演じて遊ぶことができる。

ゲーム遊び

- ・カードゲーム（トランプ・かるた）
- ・すごろく
- ・パズル 等

構成遊び

- ・粘土
- ・玩具作り（紙鉄砲・ハンカチ人形・手袋人形）
- ・草木の遊び（笹舟）
- ・積み木
- ・折り紙（手裏剣・紙相撲・紙飛行機） 等

言葉遊び

- ・なぞなぞ
- ・しりとり
- ・手合せ歌（お弁当箱・お寺の和尚さん・ミカンの花咲く丘）
- ・わらべ歌遊び（はないちもんめ） 等

傾向：大人が入って全員で一つの輪が出来る。